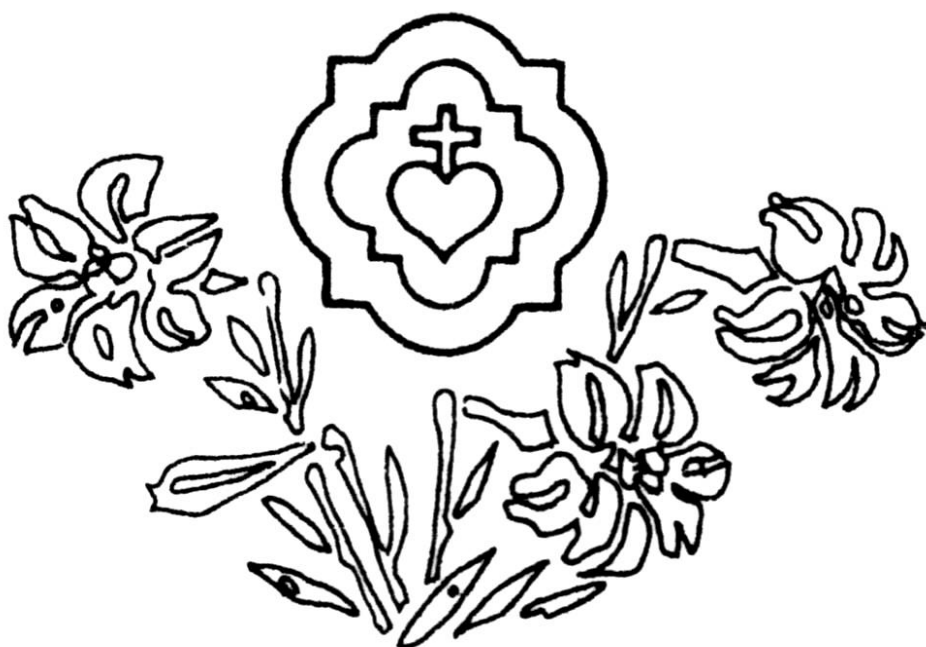


2020年度入学生
信愛教育ガイドブック



久留米信愛短期大学

信愛教育ガイドブック目次

I	心の教育と人間形成	2
II	カトリック教育	3
III	カトリック・ミッションスクールとしての本学の精神的支柱	
	a. 修道会の歴史と現状	7
	b. 建学の精神と教育理念	8
	c. 本学院の創立と歩み	8
	d. 学院章・学院標語	9
	e. 学院歌	9
	f. 姉妹校について	10
IV	本学のキリスト教的教育活動	
	a. カリキュラム内での教育活動	11
	b. カリキュラム外での活動	13
V	キリスト教的な生き方の基礎と実践	
	a. 聖書について	14
	b. 祈りについて	14
	c. 聖歌について	17
	d. ミサ、みことばの祭儀	18
	e. 典礼暦と祝祭日	19
	f. 聖母マリアとロザリオの祈り	21
	g. ボランティア精神と本学における活動	23
VI	チャペル案内	
	a. チャペルとは	24
	b. チャペル内見取図と案内	25
VII	教会について	
	a. カトリック教会について	26
	b. 秘跡について	26
	c. ローマ教皇	27
	d. カトリック教会と分かれた兄弟たちの教会	27
	e. 近隣教会の紹介	28

I 心の教育と人間形成

－心の教育の必要性について－

今日ほど「心の教育」の必要性が強調される時代はないと思われます。どうして心の教育が重要なのでしょうか。

大学、短期大学でなされる教育は学問研究を通しての人間教育です。ここに高等教育の理想があります。

ところが、現代の教育界では知的偏重の教育がなされ、その結果色々な歪みが生じました。いわば高等・無教養主義時代の様相を呈しています。これは、心の教育、人間教育を疎かにした結果生まれた教育の弊害といえましょう。私たちはこのような弊害を身近に感じるがよくあります。たとえばバスや電車の中で、ある無秩序な状況に出会った経験が数多くあるのではないのでしょうか。

たしかに大学、短期大学は専門的知識を与え、数多くの人材を社会に送り出すことによって、社会と強いかわりをもつことが出来ます。しかし専門的知識を通して、人々と社会に真に貢献するためには心の教育を身につけた人材でなくてはなりません。

本学が最も重要視するのはこの心の教育、人間教育です。

本学が重要視する心の教育は「信愛教育」を通してなされる教育で、それはキリスト教的人間像の確立です。キリストの愛の教えを通して学生一人ひとりの心の深奥にある宗教心を呼び覚まし、心の豊かな人間を育成することです。具体的には、一人ひとりの学生自身が神によって創造され愛されているかけがえのない尊い存在であることを確信し、出会う人々を兄弟・姉妹として大切に愛することを学ぶ教育です。

Ⅱ カトリック教育

ーミッション・スクールー

私たちが学ぶ本学院はカトリックのミッション・スクールです。普通、キリスト教の団体によって設立された学校がミッション・スクールと呼ばれています。広い意味でのキリスト教系の学校に使われる言葉ですが、設立母体となっている宗教団体の、その宗教のミッションとして設立されているからです。このことは、布教のためばかりではなく、その宗教の献身的精神の表われにおいて使命感（mission）をもって、学校経営に当たっていることを意味しています。

ーカトリック教育ー

カトリック教育は、まず私たち一人ひとりが神から創造され愛されているかけがえない尊い存在であることを教えます。したがって神を信じ、神から愛されていることを確信し、出会う人々を大切にすることを強調します。

真の愛は神の心と一つになり、隣人を大切にすることです。しかし、これは私たち人間の力だけでは実現出来ません。私たちを「神の似姿」として作られた神の恵みが必要です。そのために神は、イエス・キリストを私たちに与えられました。このキリストの恵みに支えられて真の愛を実践していくのです。

カトリック教育は、神を知り、神を愛して神と一致し、隣人に自分を役立てていく全人間教育を目指すものです。

ーキリストの存在意義ー

本学はローマ・カトリックの一修道会である「ショファイユの幼きイエズス修道会」を母体とし、キリスト教の精神に基づいて教育を行う学院として設立されました。カトリック学校の教育の土台は、キリストの教え、キリストそのもののなのです。

キリスト（Christ）は人となられた神の御子、唯一の神の御子です。そのキリストが十字架の上で苦しまれたことは、全人類を救済するためでした。キリストの十字架が意味するものは、人類の「救い」とその力である「神の無限の愛」です。

キリストは、私たち人間が神から期待されている生き方をすることが出来るように、十字架の死を通して、人間の新しい存在の意義を示されたのです。したがって大切なことは、キリストが示されたキリスト教的人間観を正しく生きていくことです。キリストの種々の教えが学校の教育の規律、行動の内的動機、そして究極目的となるのです。

－本学院の教育の意義－

私たちは、全ての人に奉仕するという使命に忠実に生き、人間性の向上に献身しなければなりません。大学で学び、種々の知識を修得することは言うまでもありませんが、それは一生を通じて行われるものです。それと同時に今一つ、一生かかって求めなければならないことがあります。それは神の価値観と知恵の探求です。私たちはこれまで才能を伸ばす機会に恵まれなかったかも知れません。いまその機会を十分に活用し、確固とした人生観、世界観を養い、そのための必要な知識と、それを十分に活用する「知恵」を身につけることです。ここに本学院の教育の意義があります。

「知恵」はラテン語の *sapientia*、ギリシア語の *sophia* のことです。今日において通常、知識を指す「科学的な知識 *scientia*」と違って、最も優れた意味で知識としての知恵は「永遠なもの・至高の善の観想」として捉えます。「知恵」、そして善を行うことに関わる「知慮 *prudentia*」こそが、「科学的な知識」に本当の意義を与えてくれます。なぜなら、「科学的な知識」はそれだけでは、コンピューターにおけるハードの部分に欠いたソフトでしかありません。「科学的な知識」を修得してそれを善いものに用いる能力である「知恵」や「知慮」を身に付けなければ、実は悲惨な生を送るかも知れないのです。

「知恵」や「知慮」は、大学で学び、修得した知識等が社会で生かされるために必要な蝶番（ちょうつがい）とみなすことができます。カトリック教育は、この蝶番を極めて大切にしようとしているのです。



Lithospermum purpureocaeruleum L.

ショファイユの幼きイエズス修道会

—Congregation des Soeurs de l'Enfant-Jesus de Chauffailles—

久留米信愛学院の設立母体である「ショファイユの幼きイエズス修道会」は1859年にレーヌ・アンティエによって、創立されました。

日本へは、明治10年（1877）に渡来ました。母修院は、今もフランスのショファイユに所在し、本修道会の総本部は、現在、パリ近郊のモンフェルメイユに置かれています。

フランス、日本、カナダ、ドミニカ共和国、アフリカのチャド、カンボジア、ベトナム、ハイチ等の各国で会員のシスター達が宣教活動をしています。



創立者 レーヌ・アンティエ
(1801～1883)



フランス・ショファイユの母修院



仁川本部修道院

日本における本会修道院

日本の管区本部は兵庫県宝塚市仁川にあります。現在、ここを拠点に各地に支部が置かれ、学校・福祉施設・病院などを経営しています。

- 1) 仁川本部修道院
- 2) 大阪信愛修道院－大阪信愛女学院（保・幼・小・中・高・短大）
- 3) 京都修道院－京都カトリック信愛（幼）
- 4) 和歌山信愛修道院－和歌山信愛女学院（幼・中・高・短大）和歌山信愛大学
- 5) 福岡修道院（福岡カトリック神学院）
- 6) 久留米修道院
－久留米天使園（児童養護施設）・久留米信愛学院（幼・中・高・短大）
- 7) 西合志修道院－熊本天使園（児童養護施設）
- 8) 天使の園修道院－天使の園（保）
- 9) 熊本内坪井修道院－熊本信愛女学院（幼・中・高）・イエズスの聖心病院
- 10) 大浦信愛修道院－大浦信愛（幼）
- 11) 長崎信愛修道院－長崎信愛（幼）
- 12) 名瀬信愛修道院－名瀬信愛（幼）
- 13) 西仲勝修道院－めぐみの園（特別養護老人ホーム）
- 14) 古仁屋信愛修道院－古仁屋信愛（幼）
- 15) 泡瀬修道院－泡瀬聖母（幼）・コザ聖母（幼）
- 16) 豊島修道院－聖パトリック（幼）
- 17) 入来修道院－薩来園（障害者支援施設）

* 保＝保育園 幼＝幼稚園 小＝小学校 中＝中学校
高＝高等学校 短＝短期大学 大＝大学

Ⅲ カトリック・ミッションスクールとしての本学の精神的支柱

ーショファイユの幼きイエズス修道会の歴史と建学の精神ー

a. 修道会の歴史と現況

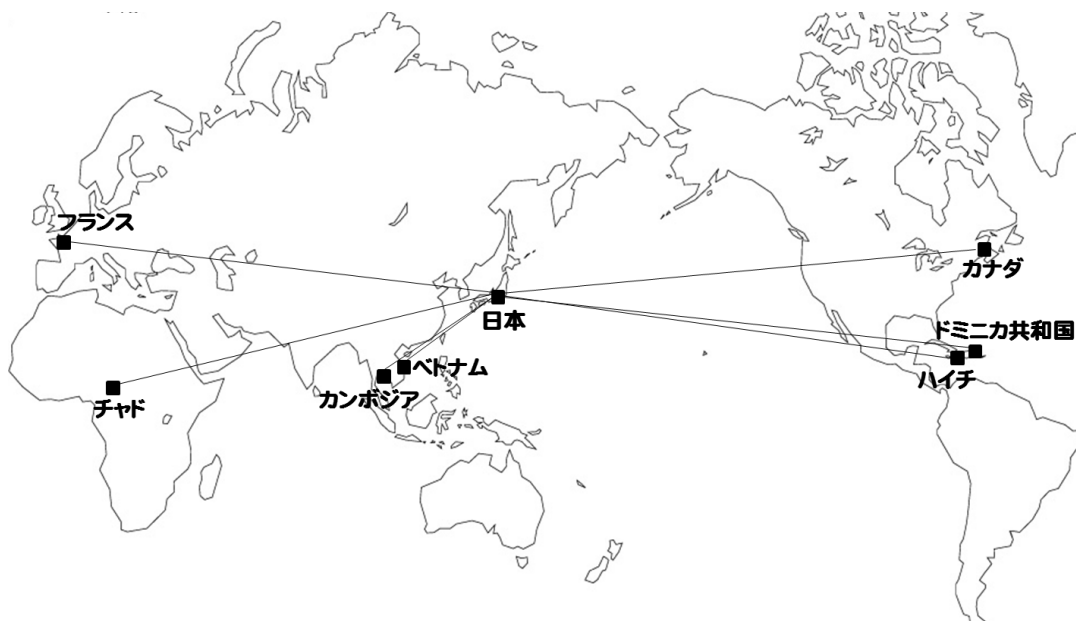
本学の設立母体であるショファイユの幼きイエズス修道会は1859年、フランスのショファイユという小さな都市に、レーヌ・アンティエによって創立されました。それは当時の社会で必要とされていた青少年、病人、貧しい人々へのキリスト教的な教育のためでした。

当時、フランス国内はまだ革命後の不安定な状況で、ショファイユの幼きイエズス修道会のシスター達はそれぞれの国内の必要とされる所へ出かけ、人々のために献身的に奉仕しました。

そして1877年、日本では明治維新後のキリスト教に対する迫害がやっと終わったばかりでしたが、当時西日本の宣教責任者だったプチジャン司教はキリスト教的教育の必要性を痛感し、修道女を派遣してくれるよう依頼しました。こうして4名のシスター達が日本の地を踏むことになったのです。

最初は、親の愛に恵まれない子供たちの世話をする仕事に専念しましたが、その後学校教育も始まり、大阪、神戸、熊本、長崎、岡山等にその基礎を築いていきました。そして現在は、養護施設、病院、障害者支援施設、特別養護老人ホーム、保育園等の社会福祉事業、幼稚園、小・中・高等学校、短期大学などの教育事業、その他、教会関係の仕事などに携わっています。

日本の管区本部は兵庫県宝塚市にあり、北は東京から南は沖縄まで日本全土約16ヶ所の支部で活動しております。



b. 建学の精神と教育理念

建学の精神は、キリストの教えに基づいた真の価値観を持つ人間を育成することです。ショファイユの幼きイエズス修道会創立者レーヌ・アンティエの言葉に、「人々が神を知り、神を愛するようになるために、私たちの全生涯を捧げましょう」、そして「マリアにおいて幼子となられた神の愛を世に示す」とあるように、創立者とショファイユの幼きイエズス修道会のカリスマが本学の建学の精神の根底にあります。

教育理念はこの建学の精神に基づいて、以下のように示されます。カトリックの精神を基盤として、学生の全人格的な開花を目指します。学生一人ひとりが主体性を確立し、それぞれの可能性を最大限に伸ばして自己形成を図ると共に、豊かな心をもって社会の建設に貢献する人間を育成します。この教育理念を具体化するため、5つの柱に従い教育します。

1. キリストの教えに根ざした教育
2. 一人ひとりを大切にする教育
3. 能力の開発を目指す教育
4. 自己形成を促す教育
5. 社会貢献への自覚と態度を形成する教育

c. 本学院の創立と歩み

本学院は、カトリック「ショファイユの幼きイエズス修道会」を設立母体とするミッション・スクールです。久留米の地に学院の基礎を置いたのは昭和35年（1960）で、当時の久留米市長杉本勝次氏の要請に応じて、久留米信愛女学院高等学校の設置認可申請が始められました。

昭和36年（1961）2月2日（カトリック教会では「主の奉献の祝日」を祝います）に設立認可され、本学院の創立記念日とされました。

これに先立ち、昭和5年（1930）日吉町に聖心幼稚園が開園されており、高等学校開校後の昭和39年（1964）本学院敷地内の現在地に移転しました。

昭和43年（1968）久留米信愛女学院短期大学が認可され、食物栄養科として発足。昭和56年（1981）幼児教育学科増設認可。昭和63年（1988）学科名、専攻名が変更され、生活学科（生活文化専攻・食物栄養専攻）・幼児教育学科となり、平成6年（1994）3学科制（生活文化学科・食物栄養学科・幼児教育学科）となり、平成14年（2002）より生活文化学科が情報社会学科に変更、つづいて平成15年（2003）食物栄養学科が健康栄養学科に、情報社会学科は平成19年（2007）よりビジネスキャリア学科に、平成22年（2010）健康栄養学科がフードデザイン学科に名称変更しました。平成29年（2017）より2学科制（幼

児教育学科、フードデザイン学科）となりました。平成30年（2018）より、中学・短大を共学化し、法人名が久留米信愛学院、短大名は久留米信愛短期大学に変更されました。

d. 学院章・学院標語

○学院章



中央の十字架は信仰を、その下のハートは愛を表す。この「信」と「愛」は学院名を表すと共に神と人に対する人間像の象徴でもある。

○学院標語＜一つの心、一つの魂＞（ラテン語 **Cor unum et anima una**）

修道会が創立者からの尊い遺産として受けついでいる＜一つの心、一つの魂＞という家庭的絆の精神は、教会の誕生の頃から既に、初代キリスト者が形づくっていた共同体の姿でした。（使徒言行録4章32）

ショファイクの幼きイエズス修道会を設立母体とする学院は、創立者の心を心として、力を合わせ、交わりと分かち合いを通して信愛の教育を実現する共同体です。学生・生徒・児童・園児（以下学生・生徒という）を中心に、管理者・教職員・保護者・卒業生及び信愛に関わり合うすべての人が、「一つの心、一つの魂」をモットーに共に歩み、協働していくのです。（「幼きイエズス修道会信愛教育」p. 24）

e. 学院歌

初代久留米信愛女学院学院長であった故シスター松永キク先生が当時（1960年頃）荒野であったこの矢取の丘に熱き情熱をもって学院を創立された時、この美しく、しかも力強い学院の理想を作詞されました。

そして、作曲家宍戸陸郎氏がそのすばらしい詞に感動し、やさしく流れ出るような愛情に満ちたメロディーをつけられたのでした。

私たちは学院の願いをよく味わい、未来への希望あふれるこの学院歌を歌い継いでいきましょう。



f. 姉妹校について

①大阪信愛女学院（大阪市）

1884年に設立され、現在までに100年以上の伝統を持っている由緒ある学院です。短期大学は1959年に設立され、城東キャンパスには幼稚園、小学校、中学校、高等学校を敷地内に持ち、2006年鶴見キャンパスには看護学科が開設され、いわゆる一貫教育を行っています。

②和歌山信愛女学院（和歌山市）

1951年に設立されました。短期大学の他に幼稚園、中学校、高等学校を持っていますが、1990年に短期大学は市の中心部から現在の場所に移転、2019年に和歌山信愛大学として4年生大学を設置し、充実を計っています。

③熊本信愛女学院（熊本市）

1900年に設立された100年以上の伝統を持つ姉妹校で、幼稚園、中学校、高等学校があります。

◆海外の姉妹校（アメリカ合衆国）ーアビリーン・クリスチャン大学（ACU）ー

この大学は、テキサス州の治安のよい学園都市として知られるアビリーン市にあるチャーチ・オブ・クライスト系のミッション・スクールで約5,200名の学生が学んでいます。



IV 本学のキリスト教的教育活動

本学では、学生が建学の精神に基づいて、キリスト教に関する知識を学び理解し、福音的価値観と宗教的情操を養うために、次のような教育活動を実施しています。

a. カリキュラム内での教育活動

基礎教育科目の中で『キリスト教概論』と『信愛教育Ⅰ～Ⅳ』を全学生が履修します。科目内容の概要は次の通りです。

(1) 『キリスト教概論』

「創世記」を読み、神の似姿として創造されながら罪と弱さをもつ人間の両面性について学びます。また、「新約聖書」を通してイエス・キリストの生涯を辿りながら、さまざまな出来事に込められたメッセージを読み取り、キリスト教的な人間像を学びます。

(2) 『信愛教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』

「キリストの教えに基づいた真の価値観を持ち、豊かな心を持って社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を理解、浸透、実践するために、下記に示す各テーマに沿って、祈り、学長講話、担任講話、宗教行事、クラスミーティング、クラス単位・小グループ単位の活動を行います。また、学生生活全般を通じた体験の中で、建学の精神の理解と実践を図る視点から、この科目の中で下記の宗教行事や学友会活動なども実施します。

信愛教育Ⅰ：「愛と奉仕」をテーマとしてボランティアについて考え、小グループ活動で計画を立て実践すると共に、ボランティア活動に従事している方の特別講演などを通して、愛と奉仕の精神を育みます。

信愛教育Ⅱ：「人間の尊厳」をテーマに、講話やグループディスカッションなどを通して、キリスト教における人間と神の関係を知り、人間一人ひとりの存在の尊さを考え、自己を他者に生かす隣人愛の大切さについて学びます。

信愛教育Ⅲ：「賜物としての^{いのち}生命」をテーマとして、キリストの教えに基づいた＜^{いのち}生命＞について学び、子どもの虐待、貧困に苦しむ海外の子どもなどの問題に関する意識を高めます。

信愛教育Ⅳ：「世界の平和」をテーマに、平和の本当の意味、その支えとなる愛と正義、平和を生み出すためコミュニケーションの大切さなどについて学びます。

①全学礼拝

『信愛教育』の時間のはじめに、全学生、教職員全員で行います。祈り、聖歌、聖書朗読が行われます。『朝の祈り』と同様に、神を敬い、人を愛するキリスト教的人間像の育成につながる大切な祈りの時間です。

②チャペル礼拝

『信愛教育』の時間内に、クラス別または学科別、学年別で行います。チャペルを訪問して礼拝を行います。聖なる雰囲気の中で静かに祈るひときは、心を深い観想に導いてくれます。

③宗教行事

1年間の中で、下記の宗教行事が『信愛教育』の時間内で行われます。その中でキリストの教えに基づいた真の価値観を各学期の『信愛教育』テーマに沿って考え、人間として社会に貢献するための豊かな心を養って行きます。

聖母祭

神の母であり人類の母である聖マリアを讃え、愛と崇敬を深めるため、聖母月とされる5月に聖母祭が行われます。ステージ上の祭壇に飾られた聖母像の前で、「みことばの祭儀」が行われ、クラスごとに＜祈りの霊的花束＞を捧げます。

練成会

秋の一日（10月）、日常生活の喧騒を離れ、心の眼を内に向けて自己の生き方を省み、神のみ旨にかなう生き方を探る時として「練成会」が行われます。主な内容は、その期の『信愛教育』のテーマに沿った指導司祭による講話、感想の分かち合いとまとめが行われ、最後にみことばの祭儀を通して皆で祈ります。

追悼祭

カトリック教会では、11月を死者の月として、特に死者のために祈りを捧げます。本学でも11月に「追悼祭」を行い、学院の恩人、教職員や学生に関係ある故人のために、「みことばの祭儀」を通して学生・教職員全員で死者の冥福を祈ります。この行事は、生と死の意味について深い省察を行うよい機会ともなります。

クリスマス祭

キリストの降誕を祝う「クリスマス祭」は、復活祭とともにキリスト教会の最大の祝日となっています。本学においても、クリスマス・ミサを行い、共にキリストの降誕を祝います。

創立記念

2月2日は学院創立記念日です。この日に近い後期の『信愛教育』の時間に、学院の創立と歴史をテーマに講話が行われます。それを通して学院創立の目的と使命を考え、神様の祝福と学院の発展を祈ります。

b. カリキュラム外での活動

(1) 朝の祈り

日々の活動を神に捧げ、聖なるものとし、実り豊かなものとするために、始業前に放送による〈朝の祈り〉を行います。内容は、祈りと簡単な講話（月曜日のみ）です。

(2) ロザリオの祈りの集い

5月（聖母月）、10月（ロザリオの月）中の月曜日か水曜日昼休みに、短大チャペル（祈りの部屋）に集まって、世界平和のため、あるいは、各自の意向のためにロザリオの祈りを行います。

(3) キリスト教研究部

学友会の部活動として、キリスト教についてより深く知りたい学生が集まり、各地の教会を訪ねたりしながら、学生が関心を持つテーマについての研究や発表を行います。



V キリスト教的な生き方の基礎と実践

a. 聖書について

聖書はいつも世界のベストセラーになっている本で、どこでも手にすることが出来ます。聖書はキリスト教の教えとその生き方の原点なのです。人々は神を知るため、そしてキリストを知るため、キリストのように生きるため、キリストの言葉を聞くために、聖書を読み、そのみことばを生きるように努めます。

キリスト者が人生の指針として大切にしている聖書は、旧約聖書と新約聖書から成っています。現在では一巻になった『旧新約聖書』として手にすることが出来ます。聖書を開くと旧約は創世記からはじまって39（第二正典を合わせて46）巻、新約はマタイによる福音書からはじまって27巻から成り立っています。その各々は一定の方針で編集された全書と考えられます。

「旧約」は人類の初めからキリストに至るまでの神と人との出会い、契約を記したもので、信じるべき教えとして書き残された書物を集めたものです。

「新約」は旧約の完成を意味し、キリストが人間となり、この地上で生活された間に人間の本来の生き方を、教え、行われたことを記したものです。

また、聖書学という学問では、聖書考古学、聖書史学、聖書文献学、聖書語学、聖書釈義学という五つの分野に分かれて研究されています。

キリスト者が生涯の指針として聖書を手にするのは、五つの学問分野を究めるためでなく、人間にとって必要な「生きるいのちのことば」として読むのです。学問するのではなく、豊かに生きるためなのです。

聖書本文の語りかけを体にも、心にもしみとおるように読むのです。一度手にした聖書のみことばを自覚を持って生きることが出来るように努力しましょう。

b. 祈りについて

●キリストに倣いましょう

祈りは「神との対話」です。

祈りには、個人で行う個人的な祈りや、共同する祈り、ミサなどの典礼的な祈り、その他、聖母月の祈りやロザリオの祈りのような伝統的な祈りもあります。

本学院でも、朝の祈り、チャペルでの祈り、全学礼拝、全学朝礼など「心をつつ」にして祈る機会が設けられています。

祈りは、神に心をあげ、神と対話することであるといわれます。宇宙万物の創造主、超自然的、絶対的な存在である神と、私たちはどのように対話すれば良いのでしょうか。

●覚えておきたい祈り

〈主の祈り〉

キリストは、「あなた達の父である神は、あなた達が必要としているものを願わない先に知っておられる。だから、こう祈りなさい。」と仰せになって、

天におられるわたしたちの父よ、み名が聖とされますように。
み国が来ますように、
みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。アーメン
(マタイ 6 章 9－13)

と、弟子たちに教えて下さいました。

神を「父」と呼ばせてくださることに注目しましょう。私たちは、神に愛される子として創られ、存在しています。したがって、創り主である神、御父を礼拝し、讃美し、感謝を捧げるとともに、償い、希望や願いを表すようにしましょう。また、日ごとのパンとは、私たちの身体だけでなく霊魂を育み、心を養うもののすべてを指していると考えることが出来ますし、「わたしたち」ということばは自分だけでなく、すべての人々のことで全世界に開いた心を示すと言われています。

〈アヴェ・マリアの祈り〉

この祈りは、大天使ガブリエルがおとめマリアにキリストの御母となられることを「恩寵に満ちた方、主はあなたと共においでになります。」(ルカ 1 章 28 節)とご挨拶する場面が前半の部分で、様々な名画(受胎告知)や名曲(アヴェマリア)とともに親しまれています。祈りの後半は、聖母を神さまからもっとも恵まれた方として尊敬し、神への取り次ぎと聖母の援助を願うものとなっています。

アヴェ・マリア、恵みに満ちた方、
主はあなたとともにおられます。
あなたは女のうちに祝福され、
ご胎内の御子イエスも祝福されています。
神の母聖マリア、わたしたち罪びとのために、
今も、死を迎える時も、お祈りください。アーメン

〈栄唱〉

三位一体の唯一の神であり、三位の神の栄光をあらわします。

栄光は父と子と聖霊に。

初めのように今もいつも世々に。アーメン

●神への信仰と信頼を

キリストは多くの奇跡を行われました。12年間も出血症を患っていた女の話は、信仰と信頼の大切さを示している一例といえるでしょう。「(女は) うしろからイエスに近寄り、イエスの衣のふさに手を触れた。このかたの衣に触れるだけで治ると心の中で思っていたからである。」イエスは振り返って「娘よ安心なさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ。」その時、彼女は治されました。(マタイ9章20-22)

●忍耐強く祈るように…

キリストは祈りには忍耐が必要であると、次のようなたとえを話されました。

ある夜、友人が訪ねて来て、「友よ、三つのパンを貸してください。友だちが来たのですがその人にあげるものがないのです。」と頼みます。友人は「わずらわしてくれるな、もう寝たから起きてそれをあげるわけにはいかない。」と答えますが、その人は戸を叩き続けます。

キリストは「友人であるからそれをあげるのではないにしても、少なくともわずらわしいので、起きてのぞみのものを与えるであろう。」(ルカ11章5-8)と言われ、「忍耐よく」、「繰り返し」祈り続けなければならないと教えられました。

●求めよ、そうすれば与えられよう

求めよ、そうすれば与えられよう。捜せ、そうすれば見出そう。

叩け、そうすれば開かれよう。求める人は受け、探す人は見出し、

叩く人は開かれる (マタイ7章7-8)

私たち自身、必要とするものを祈り求めなければならないのです。またキリストはつぎのように仰せになり、「神の国とその義を求めよ (マタイ6章33)」と教えられました。私たちは、自分本位な願いだけを求めるのではなく、神自身をもたらす贈り物を希求するよう、祈りの中身を変えていくことも大切です。

c. 聖歌について

聖歌は「歌による祈り」です。

「歌うのは愛している証拠である」と聖アウグスチヌスは述べていますが、ミサにおいて音楽は重要な部分を担っております。

ミサの時に歌が神の賛美のために歌われるというのは、ごく古い時代からあったようですが、初めはユダヤ教の慣習にならって「旧約聖書」の中の「詩編」に簡単なふしをつけて歌っていたと考えられています。

カトリックの聖歌に決定的な形式を与えたのは紀元6世紀の教皇グレゴリウス1世だと言われており、「グレゴリオ聖歌」として今日まで歌い継がれてきています。歌詞はラテン語で書かれ、主として聖歌隊によって歌われます。

16世紀に起こったルターの宗教改革以後、分かれた兄弟たちの教会では一般信者が教会で一緒に歌えるように各国語の歌詞に作曲された賛美歌が発達しました。

カトリック教会でも20世紀に入ってから「カトリック聖歌集」を編集するようになりましたが、1962年に開かれた「第二ヴァチカン公会議」以後、ミサや聖歌の形式が大きく変わり、日本でも日本語による典礼のための聖歌が数多く作曲され、聖歌隊が中心ではなく、一般信徒によって歌われるようになりました。

このように聖歌は聖書のように不変のものではなく、時代や文化によって様々に変化していくもので、現在のカトリック聖歌集の中には、分かれた兄弟たちの教会の賛美歌も取り入れられています。

しかしながら、ただ新しい傾向や、時代の風潮に流されてしまうだけでなく、古き良き伝統に根ざした上で、新しい歌を創造していく必要があるのではないのでしょうか。そういう点で、「カトリック聖歌集」「典礼聖歌集」には、両面が兼ねそなえられているといえるでしょう。

古くからのことわざに「よく歌う人は倍祈ることになる」とありますが、心を込めて神を賛美する歌を歌うことによって心の中に大きな喜びがわきおこってくるのではないのでしょうか。

※教会音楽とパイプオルガン*1

教会音楽の目的は神の栄光と信者の聖化にあります。教会音楽は、祈りをより美しく表現し、一致協調を促進し、また、聖なる儀式をさらに荘厳なものとして豊かにすることによって、典礼行為と固く結ばれ、いよいよ聖なるものとなるのです。従って典礼にとって音楽の果たす役割は、必要なもの、充実をもたらすものといえましょう。

パイプオルガンは、その音色が教会の祭式にくすしき輝きを添え、心を神と天上のものへ高く揚げる伝統的楽器として大いに尊重されてきました。それは、神を賛美し

て祈る人間のあらゆる感情をその音色の多様性によって表現できるからです。しかも、広い祈りの場においては力強い音を持つ楽器が必要になります。パイプオルガンは聖なる環境を造り出すのに大いに役立っているのです。

できるだけ大会堂を満たし、祭式に輝きを添える独奏、あるいは、ことばと結ばれて荘厳な典礼の一部となる成果を支え、祈りの声に伴奏する役目等、神聖なる務めが歌とともに盛儀をもって挙行され、聖職奉仕者が加わり、これに会衆が行動的に参加するとき、典礼行為はより高貴なものとなります。

- *1 本学のパイプオルガンは1981年に製造されたドイツ製のもので、パイプ898本、ストップが13あります。礼拝や儀式の時の奏楽、聖歌の伴奏に用いられています。

d. 「ミサ」と「みことばの祭儀」

「ミサ」は、カトリック教会において最も中心となる祭儀です。それはキリストの最後の晩餐を記念するもので、キリストのからだ全体がささげられ、人々に尊い生命を与えるものです。

気の合った友人と食事を共にすることは、誰にとっても楽しいことです。キリストも友と食事をすることを喜びとされました。キリストは会食することによって生ずる心の交わりを大切にしていたからです。

キリストが弟子たちとそろって過ごす最後のタベ、そこで弟子たちを心から愛してきたキリストは自分のいのちを、全人類のためにささげ尽くされます。そこにささげられるのはキリスト自身であり、そこに示されているのは、人々のためにいのちをかけたキリストの愛そのものです。

最後の晩餐はキリストが自分のすべてをパンとぶどう酒に託して、私たちに与えるキリスト自身、そしてその愛そのものを意味しているのです。キリストの愛はこの世に生を受けたすべての人に対する神の愛といつくしみの表明なのです。これを記念するのがミサです。

ミサの典礼は前半の部に「ことばの典礼」（祈りとみことばの朗読）、後半の部として「感謝の典礼」から成っています。特に後半の部ではキリストが聖体としてささげられ、キリストの死と復活、最後の晩餐が再現されます。ミサにあずかることは、キリスト者の最も本質的な要素に触れることになるのです。本学ではクリスマスにミサが行なわれます。

「みことばの祭儀」は、ミサの典礼の前半の部（祈り、みことばの朗読、説教）を独立させた祭儀です。本学では、入学式、卒業証書授与式、聖母祭、追悼祭、練成会などで行われます。

e. 典礼暦と祝祭日

カトリック教会では、一定の日に、キリストの救いのわざを思い起こして祝います。毎週、日曜日は主日としてキリストの復活の記念を行い、年に一度、もっとも盛大な復活祭という祭儀を行います。また、キリストの神秘を1年の周期で祝い、その暦が典礼暦です。その主なものは次のとおりです。

(1) 待降節

11月30日（使徒の聖アンデレの祝日）に近い日曜日を待降節第1主日とし、それから12月24日までの期間を待降節といいます。待降節とは＜キリストの降臨を待つ季節＞ということです。

それは旧約時代のイスラエルの民が、約束されたメシア（救い主）を待ち望んだように、私たちも救い主であるキリストに大きな希望をもって待ち、特別に祈り、善業をするように努めて準備します。

また、キリストの誕生だけでなく、救いの完成の時にキリストが再臨されることを信じ、希望し、「主よ、来て下さい」と祈る時でもあります。

(2) 降誕節

救い主であるキリストの誕生を特に祝う喜びの季節です。この期間中、聖家族の主日（聖家族とはイエス・キリスト、聖マリア、養父聖ヨゼフの家庭のことです）、主のご公現の祭日、主の洗礼の主日を祝います。降誕節は主の洗礼の主日で終わります。

(3) 四旬節

復活祭前の準備の期間をいいます。主の復活をふさわしく祝うことができるように、初代教会より祈りと断食を実行して来ましたが、四世紀頃から今のように40日間をそれに当てたので四旬節といわれるようになりました。

しかし、日曜日は、主の日ということでその中には含めませんので、主の復活祭の46日前より始まります。その初日は、「灰の水曜日」といわれ、信者は教会に行き、額に灰を頂く式に参加します。また、欧米では、カーニバル（謝肉祭）がその前晩に街中で行われます。

(4) 復活節

復活の主日から聖霊降臨の主日までの50日間をいいます。復活徹夜祭で受洗した新しい仲間を迎えて若返った教会が、新しい気持ちで主の復活を喜び祝う季節です。

●教会の大きな祝祭日

- ・主の降誕祭（クリスマス 12月25日）

キリストの御誕生を祝います。

- ・主の公現

キリストがご誕生後、イスラエルの民以外の人々にも、神であることを公けに現したことを祝います。

- ・主の洗礼

キリストが洗礼者ヨハネよりヨルダン川で洗礼を受けたことを祝います。

- ・主の復活祭（イースター）

キリストが人類の救いのために十字架上で亡くなられた後、3日目に復活し、神の御栄光を現したことを祝います。

- ・主の昇天

キリストが復活後、40日目に天に昇り御父の許に帰られたことを祝います。

- ・聖霊降臨

キリストの復活後、50日目に生前の約束どおり聖母マリア、弟子たちに目に見える形で聖霊を送られたことを祝う。教会が誕生した日ともいわれています。

- ・神の母マリア（1月1日）

神の母であるという、特別な使命を持つマリアを祝います。

- ・聖ヨゼフ（3月19日）

聖家族の長として人間キリストとその母を養い育てた聖ヨゼフを、隠れた聖徳の人として祝います。

- ・聖母被昇天（8月15日）

聖母マリアが生涯の終わりに神の力によって天にあげられたことを祝います。

- ・諸聖人の祝日（11月1日）

有名無名を問わず、通常の聖人暦にも載っていないすべての聖人、そして天国で神の許にいるすべての人を祝います。

- ・無原罪の聖母（12月8日）

人類は人祖の罪（これを原罪という）のため、みな罪を負って生まれるが、聖母だけは神の母としてこの汚れから免れたことを祝います。

●その他教会では一年のうち、次のような月を定めて特別に祈ります。

- ・聖ヨゼフの月（3月）

キリストの養父聖ヨゼフを祝い、その取り次ぎを願います。

- ・聖母月（５月）

聖マリアを祝い、その御徳に倣い、取り次ぎを願います。

- ・イエズスの^{みこころ}聖心の月（６月）

特にイエズス・キリストの人類への愛を思い、感謝して祈る月です。

- ・ロザリオの月（１０月）

マリア様が特別すすめられたロザリオの祈りによって取り次ぎを願う月です。

- ・死者の月（１１月）

特に亡くなった人たちのために祈る月です。

f. 聖母マリアとロザリオの祈り

（１）ロザリオとは

ロザリオとは、お祈りをする時に使う道具（P.22 ロザリオの図参照）です。もともとは、どれだけお祈りをしたかを数えるものだったようです。ロザリオの祈りは、イエスの生涯を思い巡らしながら、主の祈りとアヴェマリアの祈りを繰り返す祈りです。また、ロザリオの祈りは、マリア様への呼掛けの祈りともいえます。

ロザリオとは、Rosa＝ばら→「バラの集まり」「バラの庭」、「バラの花束」といった意味があります。つまり、マリア様に祈りの花束を捧げることを意味します。ロザリオの祈りは、すでに１１世紀にはじまり、１５世紀頃には、今日のような形になりました。

（２）祈り方

ロザリオの祈りは、もちろん個人的に自分の願いを込めて祈る場合もありますが、みんなで集まってお祈りする場合もあります。本学では、５月の聖母月と１０月のロザリオの月に、ロザリオの祈りの集いを行います。

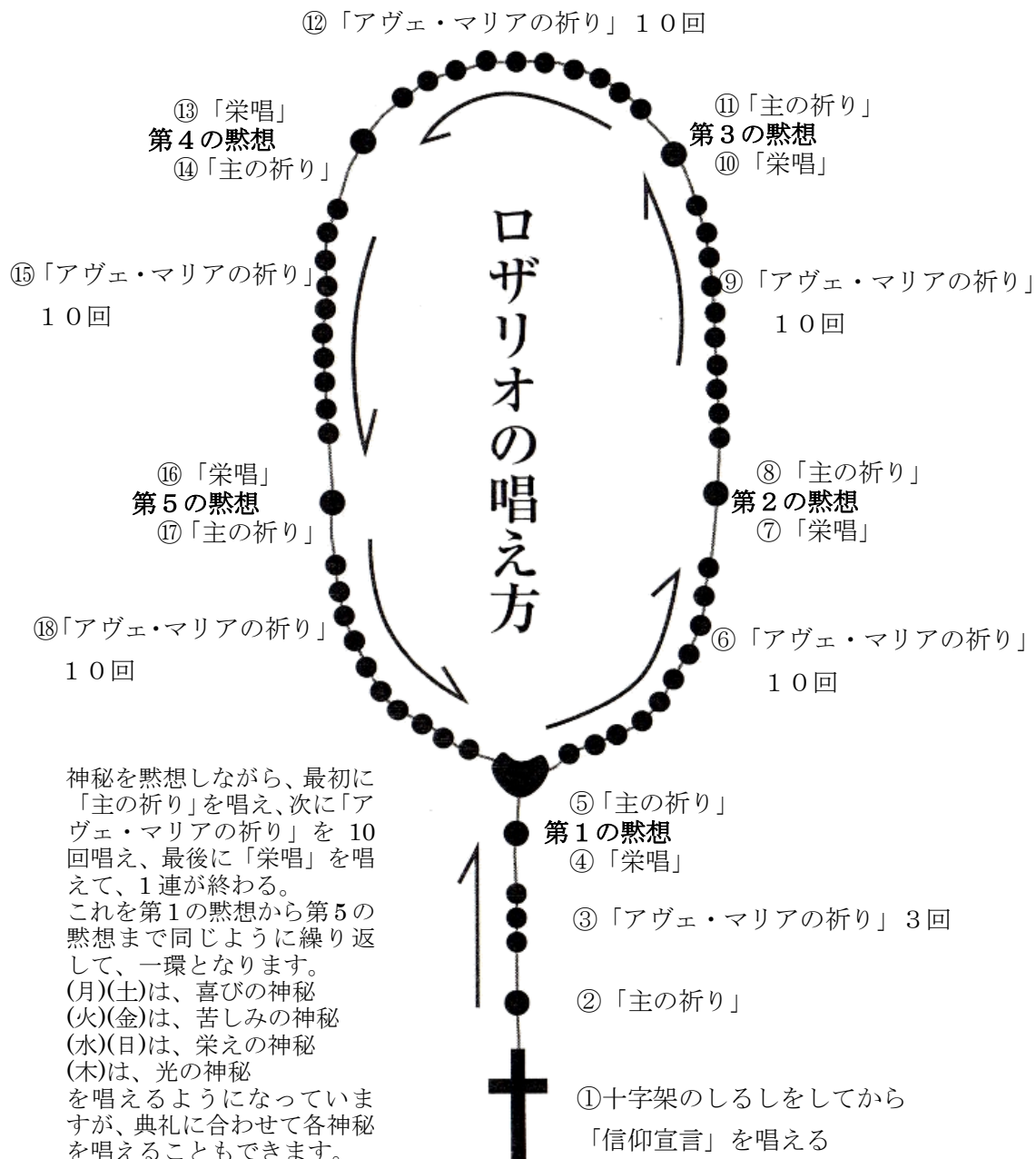
また、ロザリオの祈りはイエスや聖母マリアの生涯を思い巡らしながらお祈りしますが、曜日によって次のようなテーマで祈ります。

- | | |
|-----------------------|-------|
| ・キリストのご誕生を中心に（喜びの神秘） | 月、土曜日 |
| ・キリストの公生活を中心に（光の神秘） | 木曜日 |
| ・キリストのご受難とご死去（苦しみの神秘） | 火、金曜日 |
| ・キリストと聖母マリアの栄光（栄えの神秘） | 日、水曜日 |

これらのテーマを各5つに分けて（第1の黙想～第5の黙想）、ロザリオ1連ずつを唱えながら黙想していきます。「・・・の神秘」とある「神秘」とは、イエスと聖母マリアの生涯の出来事、つまり救いの歴史の出来事のことです。

(3) いつでも、どこでも

道を歩きながら、バス・電車等の乗り物の中で、単調な仕事の時等に出来るのです。



g. ボランティア精神と本学における活動

これらのわたしの兄弟、しかも最も小さなものの一人にしたのは私にしたのである。(マタイ 25 章 40)

「ボランティア」という言葉は「まったく自由に、自らすずんで報いを求めず、助けを必要とする人につくすこと」という非常に美しい響きと意味あいをもった言葉です。「私たちは他の人々と一緒に生きて初めて幸せになれるのだ」ということが、その土台になります。

現代の社会に於いて、サービスを受ける立場にある人が、本当に欲しているのは単にお金や施設や設備が整えられることではなく、人として認められ、大切にされ、共にこの人生を生きるという、人々の暖かい心に触れることです。ここに私たちの活動の場があります。無償の奉仕、愛の姿こそ、サービスを受ける人に共に生きる喜び、生きる尊さを伝え、また周囲の人々にも共感を呼び起こします。

誰でも人からしてもらいたいと望むことを、人にもしてあげなさい。
これが律法と預言者の教えである。(マタイ 7 章 12)

私たちは、単に社会から何かを頂くだけではなく、さらに社会に対して、何かを与えることが大切です。それによって、自分が成熟した人間へと成長していくことになります。



VI チャペル案内

a. チャペルとは

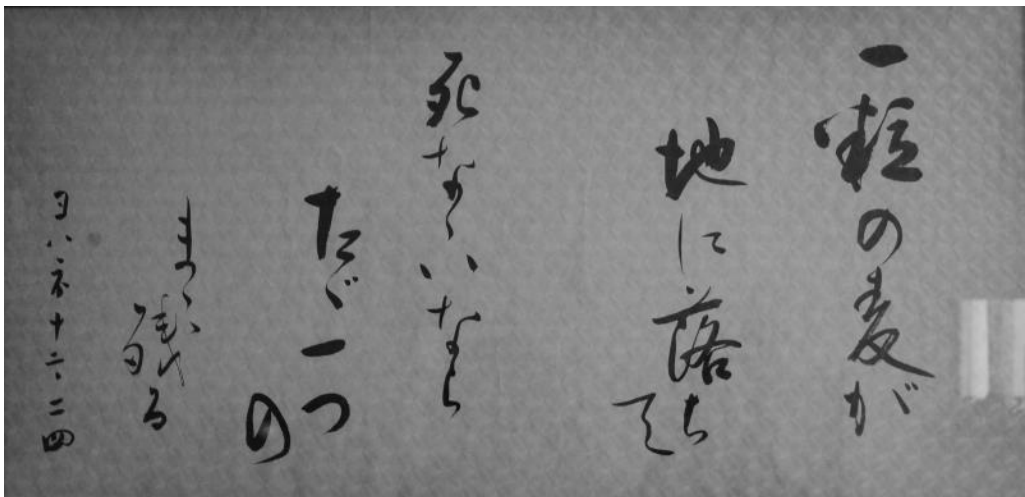
チャペルとは、イエス・キリストのまなざしのもとで、静かに祈ることのできる場所です。チャペルには、ご聖体が安置されています。即ち、神であるキリストの現存される特別なところ です。イエス・キリストはこの世を去るにあたり、人類の救いのために、ご自身をパンの形（ご聖体）で残されたのです。

聖書にはキリストの次のような言葉があります。

イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなた方のために与えられるわたしの体である。わたしの記念として、このように行いなさい。

(ルカ 22 章 19)

レオナルド・ダヴィンチの名画「最後の晩餐」はこの場面を描いたものですが、このようにして、キリストは世の終わりまで人類と共に生きることを約束されたのです。



「一粒の麦が 地に落ちて 死なないなら ただ一つの まま残る」

(ヨハネ 12 章 24)

b. チャペル内見取図と案内



①十字架像

キリストが人類の救いの為に十字架上で亡くなられたことを想起させます。

②^{せいひつ}聖櫃

この中にご聖体が安置されています。

③聖体ランプ

ランプの点灯は聖櫃の中にご聖体が安置されていることを示します。

④祭壇

司祭がごミサを捧げる場所です。

⑤十字架の道行

チャペルの左右両側の壁には、キリストがゴルゴダの丘で十字架の刑を受けられ、墓に納められるまでの場面を描いた14枚の聖画が飾られています。

VII 教会について

a. カトリック教会について

教会はキリストにおける、いわば秘跡、すなわち神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり、道具なのです。教会において私たちは神と出会い、神と一致し、そして人々との交わりをもち真の幸せと救いを得るのです。カトリック教会は全人類の救いという普遍的使命をその全生活を通して生きています。

キリストの教えを信じる人たちの共同体には、カトリック教会の他に、分かれた兄弟たちの種々の教会があります。各教会ではキリスト自身の望みに従って、分かれた兄弟が再び一致するよう祈りと努力がなされています。このような動きを「教会一致運動＝エキュメニズム」と呼んでいます。

b. 秘跡について

秘跡はキリスト自身が、教会の中で、私たちと実際に会おうために定められた目に見える「しるし」です。

カトリック教会はキリストに由来する貴重な宝として七つの秘跡をもっています。秘跡が七つあるのはキリストと出会うという救いが、私たちの具体的な生活の中で七つの異なった形で実現することを意味しています。秘跡を通して実現するキリストとの出会い、キリストとの一致は私たちを聖霊で満たし、キリスト者相互の一致を深めさせ、キリストのからだである教会共同体を成長させていきます。

七つの秘跡

(1) 洗礼の秘跡

イエス・キリストが制定した最初の秘跡です。これによって、神の生命を受け、神の子となります。洗礼を受けた人は、霊魂に消えることのない「霊印」が与えられ、キリスト者として教会に属する者となります。

(2) 堅信の秘跡

聖霊を豊かに受け、霊魂に消えない「霊印」が与えられます。キリスト者がキリストの証人としての使命をよりよく果たすことができるように信仰を強化します。

(3) 聖体（エウカリスチア）の秘跡

イエス・キリストのおん体（聖体）を霊的糧として受け、キリストの生命とますます深く一致します。普通、聖体祭儀（ミサ聖祭）において聖体を拝領します。

洗礼、堅信、聖体は、キリスト教入信の秘跡と呼ばれます。

(4) ゆるしの秘跡

キリスト者が洗礼の後に犯した罪を、司祭を通して神に告白し、そのゆるしを得るとともに、新たに超自然の生命を得ます。

(5) 病者の塗油の秘跡

病気になったキリスト者を助け強める秘跡です。この秘跡にあずかった病者は、聖霊の恵みによって霊的、精神的力を得、体の健康をも回復させることができます。

(6) 叙階の秘跡

教会の位階的司祭職の任務と権能を授け、これをふさわしく行うための恩恵を与える秘跡です。司教、司祭、助祭の諸任務と諸権能を授け、これを受ける人に聖なる役職の消えない「霊印」を与えます。

(7) 結婚の秘跡

キリスト者である男女の生涯の絆を結び、夫婦がその務めをよく果たせるように神の恩恵を与える秘跡です。

c. ローマ教皇

キリストは救いのみ業を世の終わりまで継続するために自ら教会を創立されました。そして直接ペトロにこの教会を教え、治め、聖化する権能を与えられました。ローマ教皇はこのペトロの後継者です。現在の教皇は初代教皇ペトロから第266代目に当たる教皇フランシスコです。

d. カトリック教会と分かれた兄弟たちの教会

キリストの教会には現在カトリック教会と分かれた兄弟たちの種々の教会があります。

キリストの教会は、歴史を通して種々の理由から多くの分裂を経験して来ました。その長い歴史の中で、教義上、民族上、政治上の問題で大きな分裂が二回起こりました。最初の分裂は九世紀に起こり、キリストの教会はカトリック教会とギリシア正教会とに分かれました。二回目の分裂は十六世紀のいわゆる宗教改革による分裂で、カトリック教会とプロテスタント教会とに分かれることになりました。

キリストの教会は元来、創立者キリスト自身の意志により、一つの教会です。それゆえ分裂後、このキリストの意志に従って再び一致するために多くの運動がなされて来ました。現代は特に第二ヴァチカン公会議を契機として教会一致運動が盛んに行われ、一致の方向へ大きく歩み出しています。

e. 近隣教会の紹介

近隣の主な教会を紹介します。カトリック信者でなくとも自由に訪れることができます。なお紙面の都合上、ここには福岡地区と佐賀・熊本地区の主な教会のみを載せました。

	郵便番号	住 所	TEL
〔福岡地区〕			
大名町教会	810-0041	中央区大名 2-7-7	092-741-3687
大名町教会はカテドラル（司教座聖堂）です。			
大楠教会	815-0082	南区大楠 2-7-10	092-521-6946
笹丘教会	810-0034	中央区笹丘 1-16-1	092-761-4504
浄水通教会	810-0028	中央区浄水通 6-22	092-531-3689
高宮教会	815-0083	南区高宮 4-10-34	092-531-6494
茶山教会	814-0111	城南区茶山 2-12-11	092-821-7024
西新教会	814-0003	早良区城西 3-14-1	092-851-8032
箱崎教会	812-0054	東区馬出 4-8-21	092-651-3867
光丘教会	812-0874	博多区光丘町 1-1-15	092-581-0570
吉塚協会	812-0041	博多区吉塚 5-17-40	092-621-2959
老司教会	811-1346	南区老司 5-28-1	092-566-2323
久留米教会	830-0031	久留米市六ツ門町 22-43	0942-32-8011
今村教会	830-1223	三井郡大刀洗町大字今 707	0942-77-2301
本郷教会	830-1211	三井郡大刀洗町大字本郷 2275	0942-77-0011
二日市教会	818-0103	太宰府市朱雀 4-14-1	092-922-2319
小郡教会	838-0141	小郡市小郡 636-1	0942-72-3256
大牟田教会	836-0842	大牟田市有明町 2-2-12	0944-52-4871
〔佐賀地区〕			
鳥栖教会	841-0033	鳥栖市本通町 1-806	0942-82-2282
佐賀教会	840-0825	佐賀市中央本町 1-17	0952-23-4754
〔熊本地区〕			
荒尾教会	864-0054	荒尾市大正町 2-1-10	0968-62-0432
玉名教会	865-0064	玉名市中 1925-2	0968-72-3269
手取教会	860-0845	熊本市中央区上通町 3-34	096-352-3030

※ミサの時刻は直接教会にお尋ね下さい。

また、英語のミサが行われている教会もあります。

信愛教育ガイドブック

2006年4月1日	改訂
2007年4月1日	改訂
2008年4月1日	改訂
2009年4月1日	改訂
2010年4月1日	改訂
2011年4月1日	改訂
2012年4月1日	改訂
2013年4月1日	改訂
2014年4月1日	改訂
2015年4月1日	改訂
2016年4月1日	改訂
2017年4月1日	改訂
2018年4月1日	改訂
2019年4月1日	改訂
2020年4月1日	改訂